

第9号
2009.12.19

オレンジ新聞

小山薫堂（責任監修）率いるオレンジ・アンド・パートナーズのゆかいな社員たち

読むと元気になる 活字のビタミン

ビタミン トピックス

55×91mmのすこし厚めの紙。この小さな空間に、無限のメッセージを込められること、ある活版印刷屋に出合っただけで知った。
(ばんこ)

人と人をつなげる名刺が生まれる場所

東銀座の路地裏に、その活版印刷屋「中村活字」はある。店主の中村明久さんは四代目だ。

「活版印刷は、鉛合金で文字をかたどった「活字」を一字ずつ丁寧に組んで原稿を作り、出来上がった組版にインクをのせて、圧力をかけて紙に印刷する技術。しかし30年ほど前から、時代とともに印刷技術が大きく変わって、活版印刷に欠かせない活字を手放す業者をたくさん見

「活版印刷は、鉛合金で文字をかたどった「活字」を一字ずつ丁寧に組んで原稿を作り、出来上がった組版にインクをのせて、圧力をかけて紙に印刷する技術。しかし30年ほど前から、時代とともに印刷技術が大きく変わって、活版印刷に欠かせない活字を手放す業者をたくさん見

「活版印刷は、鉛合金で文字をかたどった「活字」を一字ずつ丁寧に組んで原稿を作り、出来上がった組版にインクをのせて、圧力をかけて紙に印刷する技術。しかし30年ほど前から、時代とともに印刷技術が大きく変わって、活版印刷に欠かせない活字を手放す業者をたくさん見

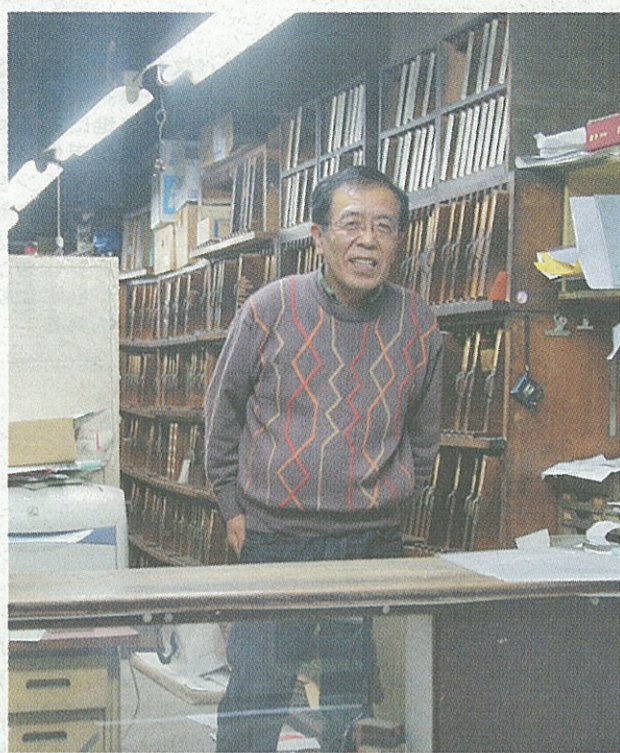
「活版印刷は、鉛合金で文字をかたどった「活字」を一字ずつ丁寧に組んで原稿を作り、出来上がった組版にインクをのせて、圧力をかけて紙に印刷する技術。しかし30年ほど前から、時代とともに印刷技術が大きく変わって、活版印刷に欠かせない活字を手放す業者をたくさん見

「活版印刷は、鉛合金で文字をかたどった「活字」を一字ずつ丁寧に組んで原稿を作り、出来上がった組版にインクをのせて、圧力をかけて紙に印刷する技術。しかし30年ほど前から、時代とともに印刷技術が大きく変わって、活版印刷に欠かせない活字を手放す業者をたくさん見

「活版印刷は、鉛合金で文字をかたどった「活字」を一字ずつ丁寧に組んで原稿を作り、出来上がった組版にインクをのせて、圧力をかけて紙に印刷する技術。しかし30年ほど前から、時代とともに印刷技術が大きく変わって、活版印刷に欠かせない活字を手放す業者をたくさん見

「活版印刷は、鉛合金で文字をかたどった「活字」を一字ずつ丁寧に組んで原稿を作り、出来上がった組版にインクをのせて、圧力をかけて紙に印刷する技術。しかし30年ほど前から、時代とともに印刷技術が大きく変わって、活版印刷に欠かせない活字を手放す業者をたくさん見

「活版印刷は、鉛合金で文字をかたどった「活字」を一字ずつ丁寧に組んで原稿を作り、出来上がった組版にインクをのせて、圧力をかけて紙に印刷する技術。しかし30年ほど前から、時代とともに印刷技術が大きく変わって、活版印刷に欠かせない活字を手放す業者をたくさん見



「縁側」。ある人は中村活字のカウンターをこう呼ぶ。さまざまな人が縁を結び、中村さんが縁をつむぐ場所（写真上）中村活字で作られた名刺の数々（写真下）

人生の転機に 選ばれる名刺

中村さんのもとにある女性が訪ねてきた。一大決心して会社を起したというその女性は、

中村さんのもとにある女性が訪ねてきた。一大決心して会社を起したというその女性は、

中村さんのもとにある女性が訪ねてきた。一大決心して会社を起したというその女性は、

中村さんのもとにある女性が訪ねてきた。一大決心して会社を起したというその女性は、

中村さんのもとにある女性が訪ねてきた。一大決心して会社を起したというその女性は、

中村さんのもとにある女性が訪ねてきた。一大決心して会社を起したというその女性は、

中村さんのもとにある女性が訪ねてきた。一大決心して会社を起したというその女性は、

走る蹴る泳ぐ 新発想?

運動不足なオレンジ社ながら、今年を振り返ってみると「スポーツ」の年でもあった。春、有志でフットサル部を立ち上げた。社員男子だけでは足りない

六本木から軽井沢まで6時間サイクリングで走らされた。秋には社長が京都ハルナリズというバスケットチームの応援をする

六本木から軽井沢まで6時間サイクリングで走らされた。秋には社長が京都ハルナリズというバスケットチームの応援をする

人生食堂・私の1軒

独身の僕は、何かと外食する機会が多い。特にこだわりのない、ふだんは目的を持って

独身の僕は、何かと外食する機会が多い。特にこだわりのない、ふだんは目的を持って

「縁側」。ある人は中村活字のカウンターをこう呼ぶ。さまざまな人が縁を結び、中村さんが縁をつむぐ場所（写真上）中村活字で作られた名刺の数々（写真下）

「縁側」。ある人は中村活字のカウンターをこう呼ぶ。さまざまな人が縁を結び、中村さんが縁をつむぐ場所（写真上）中村活字で作られた名刺の数々（写真下）

「縁側」。ある人は中村活字のカウンターをこう呼ぶ。さまざまな人が縁を結び、中村さんが縁をつむぐ場所（写真上）中村活字で作られた名刺の数々（写真下）

アイデアの浮がぶ椅子。Wilkhahn 「Sito」 オレンジの企画はこの椅子に座って生まれます。http://www.wilkhahn.jp

「通称オレンジ学科」。そんな呼ばれ方をしているのが今年の春、山形県の東北芸術工科大学に生まれた。そばにいる人からしあわせになる。そして、巡りあわせにあなたを



人生食堂 100軒 小山薫堂 「人生食堂100軒」(プレジデント社・1500円) 全国書店で好評発売中

ぐっと気温も下がり、11年ぶりに表参道のイルミネーションも復活し、街は師走モード。最後のスパートを駆けているような気配です。オレンジ新聞も9号目。特にスパートすることなくマイペースできました。来年はどんなペースで走ろうか、正月にゆっくり考えたいと思います。今年1年、読者のみなさまには大変お世話になりました。(ナツ)